

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2870600430		
法人名	株式会社 ベストウェル		
事業所名	グリーンウェル花山		
所在地	兵庫県神戸市長田区花山町1丁目5-5		
自己評価作成日	平成22年8月18日	評価結果市町村受理日	平成22年9月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・個別の希望に対応した外出の実施。いつでも気軽に外出できるようにしています。 ・屋上のプランター、庭での野菜作りや花作りを積極的に行なっており園芸を通して利用者様のQOL向上に努めています。 ・自治会に入会し、地域の行事に積極的に参加しています。 ・ご家族へ細かな報告を行ない日常の様子が見えるように努めています。 ・医療機関と連携し、提携外への医療機関への受診の支援もおこなっています。
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai-go-kouhyou-hyogo.jp/kai_gosip/informationPublic.do?JCD=2870600430&SCD=320
----------	---

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>長田神社の北部、山手の住宅地に在るホームであり、周りは静かな落ち着いた環境である。系列法人が医療法人であることから、医療面に関しての連携に関しては安心感が高い。1階庭園に家族から寄付して頂いた温室、屋上やベランダには菜園を設け、季節の花や野菜を育てている。敷地内には回廊式の小道があり、敷地内で十分に日常の外気浴が出来るように配慮がされている。改修型のホームであるが、随所に、建築的配慮もなされている。法人全体の教育委員会を中心に職員研修を実施しサービスの資向上に向け努力をしているのが伺える。一階の交流スペースを(グループホーム連絡会主催の救急救命講習会・地域行事等)積極的に提供している。地元自治会にも参加させて頂き、また、夏場は屋上を利用して地域の方々との交流行事(ガーデンパーティ・花火観賞等)も開催し、地域に開かれた事業所つくりのため、前向きに取り組んでいる。</p>
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフ・デザイン研究所
所在地	兵庫県神戸市長田区萩乃町2-2-14
訪問調査日	平成22年8月22日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および第三者評価結果

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・創立当初からの理念に基づき、日々の介護に当たっている、新規職員が入職した際にはオリエンテーションで、理念の意味を説明し、職員全員が共有する様にしている。	個人の尊厳を大切に声掛けを徹底し、質の高いケアを提供できるように段階ごとの職員研修を実施している。地域の方との交流の機会や暮らしの中での役割や楽しみごとを介護計画に位置づけ実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・自治会に入会し、自治会の行事に参加する様にしている。また、自治会主催の行事等に開催場所としてホームを開放している。	自治会に入会し、花山自治会主催の親子工作教室・昔遊び会・敬老会等にホーム一階の交流スペースを提供している。利用者も参加し地域の方と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・介護の相談窓口を設置しているが認知度が低いため、まだ相談をおこなった事はない、今後地域の方に広く知っていただけるようにしていく。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・運営推進会議での意見を取り入れるように努力はしているが、不十分である。	地域交流について相談し、ホーム主催のピヤガーデンパーティの開催に繋がった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・業務上必要な意見交換などは行っているが、日頃より密に連絡はとれていない	長田区ネットワーク連絡会に参加し、認知症早期発見システム「ご近所見守り」や感染症対策連絡会で市と連携している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・身体拘束排除に関するマニュアルに基づきケアに取り組んでいる。各ユニットの入り口は、施錠をおこなっているが、すぐに解錠出来るように全職員が鍵を持ちいつでも解錠できるようにしている	常に利用者の動向に注意を払い身体拘束をしないケアに取り組んでいる。尊厳を守る声掛けを徹底することで、スピーチロックの予防に努めている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・新規入職の職員に対しオリエンテーションの際虐待防止についての勉強会をする場をもうけている。	新人研修と年間職員研修の中で高齢者虐待予防研修を位置づけている。毎日の朝礼で不適切なケアについて申し送りをしている。	

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・成年後見制度に関しては、対象者の方がいた際に説明している。日常的には学ぶ機会はもてていない。活用出来る支援は相談があった場合に限って口答での説明をおこなうようにしている	成年後見制度を活用事例があり、成年後見人(弁護士)と連携していた。今後制度が必要な方に制度の説明や申立ての支援をすることができる。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・契約は長く時間を割いて、理解していただけるよう説明をおこなっており、契約後も疑問な点があればお聞きいただくように、口答での説明を行なっている。	面談時より契約やホームでの暮らしについての疑問点については、納得して頂けるように説明をしている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・ご家族へのアンケートを実施し、反映できるように努力しているが、外部への公表はおこなっていない	家族の要望は、運営者に報告し職員会議で検討する仕組みになっている。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・随時職員との面談を行ない、改善点など意見を聞き、反映出来るように努力している。	個人面談を6ヶ月にごと実施し、職員の意見や提案を聴く機会を設けている。(職員の提案で休憩時間の取り方を工夫した)	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・評価制度を設けており給与のベースアップに反映させている。また360度評価を実施し、職員同士が匿名で適正に評価をするしくみをつくって実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・本社を中心とした教育部が勉強会を実施、スキルアップが出来る環境をもうけている。さらにホーム内での勉強会の実施、外部研修への参加の促進を行なっている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・地域の医療、福祉関連施設の集まりに参加している。また同区内のグループホームの部会を立上げ、意見交換や勉強会の実施を積極的におこなっている。		

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・ご本人が暮らしてこられた日常をできるだけ継続できるように配慮している。またご本人の話をお聞きし情報を収集する様努めている。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・連絡を密にとりながら、不安な事などがあればいつでも相談していただける旨をお伝えしている。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・入居後も利用できるサービスは、利用していただいている。また入居後利用していただけるサービスについても、情報を提供し利用できるように支援している。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・ご本人が今まで暮らしてこられた日常や生活歴をふまえ、出来ることしたいことをご本人のやり方でしていただけるようにしている。		
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・連絡を密にとりながら、ご家族の思いや関係性を配慮し関係を築くように努力している。		
20	(11) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・ご本人の生活歴や日常の様子などを細かく聞き取りをし望まれる馴染みの部分を大切に、継続できるように努力している	友人の訪問等もあり、馴染みの関係が継続できるように訪問しやすい雰囲気づくりをしている。今後、利用者の馴染みの場所等、行きたい所への支援がしていけるように検討している。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・日頃より入居者様同士の関係を把握し、よりよい関係が保てるように配慮しながら支援に努めている		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22			○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・関係が継続するような仕組み作りは具体的には行えていないが、継続していくよう何らかの形で定期的に連絡をとり相談していただける環境作りをおこなっていきたい		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(12)		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・センター方式を日常の生活記録に取り入れ、そこから読み取れるようにしている。また日常の生活の中から些細なことでも記録に残し、意向の把握に努めている。	本人の表情、しぐさ、会話を毎日記録して、本人の意向の把握に努めている。	より本人の思いが把握できりょうに個別の会話記録を作成されたら如何でしょうか。
24			○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・センター方式の用紙を利用し、入居前にご家族様やご本人様から細かな情報収集を行ない一つでも多くの情報をお聞きし、把握に努めている		
25			○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・リビングには必ずスタッフが最低一人は居るため、お一人おひとりの一日の過ごし方や行動など把握できている		
26	(13)		○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・ご家族様と直接会えない場合は事前に連絡し、意見や希望をお聞きし、日々のケアでは個人記録に、「ケアプラン」という欄をつくり、日々のケアの中で気づいたことや発見したことプランに活かそうなことをすぐに記入できるようにしており、介護計画に活かしている	アセスメントはセンター方式を利用し、一日の変化を記録し、職員全員が情報共有している。家族が訪問時や電話を利用して、要望や意見の聞き取りをし、介護計画に反映させている。	
27			○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・個人記録には、センター方式を引用した項目を複数入れており、健康状態、身体に関した気づきや、ケアプランの内容など職員間で情報を共有し見直しなどが出来るような用紙にしている。モニタリングの時もこの用紙を利用している		
28			○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・利用者様の中にはデイケアを利用している方もおられ、このようなサービスが使える事をご家族様に伝えている。		

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・個別に必要な社会資源は提供できるように配慮している。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・ご家族様の希望を大切に、納得が得られてから受診している。	24時間連携体制の在宅医療支援診療所の医師がホームのかかりつけ医となっている。かかりつけ医の選択は、本人と家族の希望を優先し、以前からのかかりつけ医の受診ができるように支援をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・日々の関わりの中で、些細な情報や気づきを確実に報告、連絡、相談をおこない、訪問看護の際助言してもらっている。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・利用者が入院した場合、出来るだけ細かく多くの情報を伝え、安心して早期に退院出来るように働きかけている。入院の間も定期的に病院と連絡をとり、利用者の状況を把握するように努めている	丸山病院、西市民病院が協力医療機関となっている。入院時は、生活状況の情報提供を行い、入院中は職員が頻りに面会して本人の不安を取り除けるように努めている。早期退院に向けて病院関係者と連携している。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・重度化した場合、ご家族と十分な話し合いをおこない。事業所で「できること」「出来ないこと」を理解していただきながら終末期のあり方の方針を共有し支援に取り組んでいる。	医師、家族、訪問看護事業所との連携のもと看取りの実践をした。重度化した場合や看取りについては、本人と家族の意向を尊重しながら、本人の状態や家族の状況に合わせて支援の方向性を見極めをしている。	契約時に重度化した場合や終末期のケアの指針を説明できるように、指針の作成をされたら如何でしょうか。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・勉強会や日々の申し送りを通して、急変時や事故発生時の場合の動きなどを周知している。応急手当や初期対応に関しては勉強会を行なったが定期的に行ない実践力を身につけられるようなはたらきかけをしている		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・地域での避難訓練などには極力参加し、年に2回行なっている避難訓練には全職員が参加出来るように努めている。	地域の親子防災訓練に利用者と職員が参加している。運営推進会議で災害時における地域の方の協力を具体的に相談することを予定している。	災害時の職員や地域の方の連絡網を作成されたらどうでしょうか。

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・認知症ケアの勉強会は年に数回行ない、全職員が人格を尊重し、プライバシーや誇りを損ねない様な声かけをおこないまた接遇対策委員を設置し継続するよう努めている。	ホーム内接遇委員会(担当職員4名)が中心となって、自己決定を促せる声掛けができていないか確認している。年2回の接遇研修では、「個人の尊厳の保持」について学習会を実施している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・自己決定おする事の大切さを職員に日々伝えている			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・毎朝、朝の会を行ない一日の目標や希望を発表していただいている。職員はそれにそってケアしている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・ご本人の希望の服装や髪型をお聞きし、希望にそって支援している。また入浴前には利用者と一緒に洋服を選んでいる。			
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・それぞれの利用者が役割をもち、食事に参加出来るよう支援している。	利用者の希望を取り入れ、季節感のある献立作りをしている。職員も一緒に食卓を囲み、菜園で協働して育てた野菜が食卓にあがることもある。手作りおやつの日(毎週日曜日)を設け、おやつ作りを楽しんでいる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・一人一人の摂取量、栄養の状態を細かく把握できるように摂取表を工夫している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの大切さは日々スタッフに周知し、毎食後は必ず口腔ケアに取り組んでいる。その際、口腔状態もしっかり観察している			

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・一人一人の排泄パターンを把握するために、細かな排泄細かなトイレ誘導を行なっている。	排泄パターンを把握した上で本人の気持ち沿ったトイレ誘導やさり気ない声掛けをしている。自立の方は、排泄の確認をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	高齢者に多いとされる「便秘」に関しては勉強会を通して、日々スタッフにも働きかけている。水分量の把握から、飲食物の工夫、運動など個々に応じて予防に取り組んでいる		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ある程度の曜日は決めているが、その日の状況やタイミング、気分などを最優先し、お好きなときに入っていたりするように毎日お風呂は沸かしている	週3回を基本としているが、本人のその日の気分や希望に合わせて入浴できるように支援している。好みに入浴剤を使用して温泉気分や職員との会話を楽しんでもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活の習慣に合わせて、お昼まであっても休んでいただくこともあったり、夜間眠れない方については日中の活動内容などを検討したり足浴をしたりなど、少しでも気持ちよく眠れるような支援をしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬が起こらないようにすべての方の薬は分包してもらっている。薬の目的や副作用も勉強会などでも取り入れたり、服薬の変更や症状の変化などは細かく申し送りしたり、記録に記載などしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・生活歴や日々の観察をもとに、利用者様のしたいこと、出来ることを見つけ出し、出来るだけかなえられるように支援している。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・外食等行事として行なう外出にかんしても、希望をお聞きし個別に対応している。ご家族との外出はないため今後実施出来るようにしていきたい	買い物や洗濯物干し、新聞とり、ホーム敷地内や花山公園への散歩等、日々外気にふれる機会づくりをしている。希望の外食の支援をしている。外出がしづらい方は、窓を開けて外気にふれる工夫をしている。	

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買物に出かけたときは必ず、ご本人様の財布でお金を払って頂くなど、お金を持って、使うことの大切さは理解できている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を希望される方は、ご家族様の了承をとってからではあるが、好きなときに電話を掛けていただいたり、電話が出来ない方などはスタッフと一緒に手紙やハガキを書いて送っている		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・生活のにおいを大切に、生活感のある空間作りに配慮している。壁にはその時期に合わせた利用者や職員が作成した壁画があり、季節を感じていただけるよう配慮している。	庭園やベランダで季節の花や野菜を育てている。ホーム敷地内は、季節を感じながら散歩ができる小道を設ける等の建築的配慮がなされている。リビングは、畳の小あがりやソファも設置され好きな場所で過ごせるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間のリビングは一つしかないが、ソファや棚でしきりをし、独りになれたり、気のあった方同士でくつろげる居場所を確保している		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居される前にご家族様と相談し、ご本人様が昔から使っていた物や馴染みの物を持ってきていただき、入居前に生活していた空間を大切に、安心して過ごせるような工夫をしている。	入居時は、安心して過ごして頂けるように家族・本人と相談しながら馴染みの家具や寝具を持ち込んでもらっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	高齢者に適した手すりを設置したり、トイレの場所がいつでも分かるように、ポスターを貼ったり、部屋の前には表札もあり混乱を少しでもなくし、自立した生活が送れるように工夫している		